

- 自ら考え、表現できる人（創造）
- 仲間とともに高め合える人（共生）
- 心身ともにたくましい人（健康）

「やりたいこと」と「やらねばならないこと」は重なってくる

第1学期の終業式で、「夏休みを有意義に過ごすために、『やりたいこと』と『やらねばならないこと』を自分の責任で両立させよう。」と話しました。これには次の段階があって早い機会にぜひ伝えておかなければならないと考えていたのですが、12月5日（月）の全校集会でようやく話すことができました。それは・・・

自分の「やりたいこと」が目標が変わると、それを実現するために今「やらねばならないこと」が考えられるようになる。

ということです。具体例として、アメリカ大リーグで活躍しているイチロー選手の話をしました。「大リーガーになりたい」ということが願望（がんぼう）から目標が変わってくると、少年イチローにとって宿題をきちんとやるということは（居残りなどさせられることなく）練習時間を確保するためであり、ランニングもバッティング練習も、英語の勉強さえも、その目標達成のために「やらねばならない」と考えたことなのです。他人（ひと）から命じられたからやるのではないので、中途半端な取り組みではイチロー選手自身が納得（なっとく）できなかったようです。



さて、北海道日本ハムファイターズの二刀流・大谷翔平（おおたに・しょうへい）選手も同じです。彼が花巻東高校の1年生の時に作った目標達成シートがあります。中心に「ドラ1 8球団」とあります。8球団からドラフト

1位指名を受けるような選手になりたいという意味でしょう。そのために必要なことを、その周囲に8つ書いています。「体づくり」「コントロール」「キレ」「メンタル」「スピード160km/h以上」「人間性」「運」「変化球」です。その一つ一つを外側のマス目の中心に写して、さらにやるべきことを8つ書いています。「体づくり」のためには、「体のケア」「柔軟性」「スタミナ」「可動域」「食事、夜7杯・朝3杯」・・・といった具合です。

生徒たちは、このように「やりたいこと」と「やらねばならないこと」を重ね合わせて考えられる年代に入っています。1年生は徐々にそういう考え方ができる子が増えていきます。2年生は、多くの子がそういう能力を備えているはずです。3年生は、その大切さが実感を伴って理解できるようになることでしょう。

実行できるかどうかは、目標の本気度または意志の強さによるのかもしれませんが、

体のケア	サプリメントをのむ	FSQ 90kg	インステップ改善	体幹強化	軸をぶらさない	角度をつける	上からボールをたたく	リストの強化
柔軟性	体づくり	RSQ 130kg	リリースポイントの安定	コントロール	不安をなくす	力まない	キレ	下半身主導
スタミナ	可動域	食事 夜7杯 朝3杯	下肢の強化	体を開かない	メンタルコントロールをする	ボールを前でリリース	回転数アップ	可動域
はっきりとした目標、目的をもつ	一喜一憂しない	頭は冷静に 心は熱く	体づくり	コントロール	キレ	軸でまわる	下肢の強化	体重増加
ピンチに強い	メンタル	雰囲気 流されない	メンタル	ドラ1 8球団	スピード 160km/h	体幹強化	スピード 160km/h	肩周りの強化
波をつくらない	勝利への執念	仲間を思いやる心	人間性	運	変化球	可動域	ライナー キャッチボール	ピッチングを増やす
感性	愛される人間	計画性	あいさつ	ゴミ拾い	部屋そうじ	カウントボールを増やす	フォーク完成	スライダのキレ
思いやり	人間性	感謝	道具を大切に使う	運	審判さんへの態度	遅く落差のあるカーブ	変化球	左打者への決め球
礼儀	信頼される人間	継続力	プラス思考	応援される人間になる	本を読む	ストレートと同じフォームで投げる	ストライクからボールに投げるコントロール	奥行きをイメージ

(注)FSQ、RSQは筋トレ用のマシン（出所）スポーツニッポン

★野鳥との接し方に注意

青森県や新潟県で、飼育されているアヒルや鶏から鳥インフルエンザが確認され、さらに福島県内でもオオハクチョウから確認された事例が発生しています。学校生活の中でも十分注意しますが、下記の内容を参考に、土曜日や日曜日なども地域内でも注意するようお願いします。

- 死亡した野鳥など野生動物は、素手(すて)で触らないでください。また、同じ場所でたくさんの野鳥などが死亡していたら、お近くの都道府県や市町村役場にご連絡ください。
- 日常生活において野鳥など野生動物の排泄(はいせつ)物等に触れた後には、手洗いとうがいをしただけであれば過度に心配する必要はありません。
- 野鳥の糞(ふん)が靴の裏や車両に付くことにより、鳥インフルエンザが他の地域に運ばれる恐れがありますので、野鳥に近づきすぎないようにしてください。

特に、靴で糞を踏まないよう十分注意して、必要に応じて消毒を行ってください。

- 不必要に野鳥を追い立てたり、つかまえようとするのは、避けてください。

(鳥インフルエンザ関係府省庁連絡会議資料より)

年末年始を無事故で

運動スローガン

「こんばんは 早めのライトで ごあいさつ」

12月10日(土)から来年1月7日(土)までの29日間、年末年始の交通事故防止県民総ぐるみ運動が実施されます。

毎年この時期には、夕暮れ時から夜間にかけて重大事故につながるおそれのある交通事故が多発しており、高齢歩行者等が被害となる交通事故の増加が懸念(けねん)されています。

家族やご近所、さらには帰省(きせい)される方々とも声をかけ合って、無事故で楽しい年末年始になるようお祈りしています。



- ① 夕暮れ時以降に外出するときは、反射材用品等を着用するなど、自動車運転手が発見しやすい服装をしましょう。
- ② チャイルドシートの利用や後部座席を含めた全席シートベルト着用を徹底しましょう。
- ③ 飲酒運転は絶対しない、させません。

その9 他人のために役立つ教育(家庭教育文献紹介「親でなければできない教育」より)

中学生、高校生の子を持つ親の多くは「他人の世話にならないで、自力でやってくれればいい」と願っているようです。しかし、そこにとどまってしまうのは、わが子中心、わが子本位でしか「自立」を考えていないと言わざるをえません。このような「わが子本位の自立観」が、社会の中での自立や成熟を妨げてしまっているのです。例えば、①「家の手伝いをするか」、②「乗り物で年寄りや体の不自由な人に席を譲るか」、③「学校の廊下や庭のごみを必ず拾うか」というような質問に対して、日本の小学生は、アメリカ、イギリス、イラン、フィリピン、シンガポールの子どもと比べてダントツの最下位です。「自分さえ良ければ」という考え方をする子どもが多いのです。

発達段階のうえで自己中心性が強い3歳児でも、他人にお節介を焼こうとするような行動が見られます。それが人の役に立ちたいという気持ちの芽生えです。さらに5歳児くらいだと、他人の気持ちに敏感になり、頼まれれば難しいことでも役立つと頑張るようになります。この頃が「他人のために役立つ教育」の出発点です。役立つとした気持ちや行為を、大人の人から喜ばれ認められることで、大きな満足感と自信を持つようになって成長します。「手伝ってくれるのはいいけど、かえってたいへんなのよ。」などと言ってははいけません。

次に大事な時期は、小学校の中学年ごろ。グループ内での自分の役割や評価をととても気にする時期です。うまくいかなければ、友だちから厳しく非難される経験をするかもしれません。しかし、満足感と自信が得られるような体験活動を重ねながら、他人のために役立つことを一層真剣に考えるようになります。



高校生になるとお金を得るためにアルバイトをする子どもも少なくありません。その前に大切なことは奉仕の経験を積むことです。他人のために働いたときに、満足げな相手の表情や心からの感謝のことは、一人前扱いしてくれている態度などから、新しい自分の価値を発見し、自分への信頼感を高めることができます。(今回で、この連載は終了です。)